

商船三井の船が、突如中国の浙江省の港で差し押さえられた。理由は日中戦争前年の1936年に、商船三井の前身の大同海運に船舶2隻を貸して返却されなかった事によるものという。

1972年の日中国交正常化で、中国は戦争賠償請求を放棄する代わりに、日本から多額の援助が約束され、対中ODAは累積3.6兆円。現在も約300億

所に収容された。それも返ってくるのか?)

興味深いのは、こんな重大ニュースの各紙の報道姿勢だ。第一報の21日の各紙の取り上げ方は、産経が1面と3面総合、読売が1面と4面国際、毎日が3面解説と7面国際、日経が7面国際に對し、朝日だけが3面の社会面!(なんでやねん!)。そして、実際に支払った24日は、産経が1面と2面総合

今日 つれづれ



神戸 睦史
(ハウゼコ)

円が抛出されている。

問題は、今後同様の裁判が大量になされ、その当時の会社が存続していない場合は、日本国にその賠償を求めていく方針という。そうなれば、ODAの大部分を占める約3兆円の低利融資が返つてこない可能性がある。

(第2次世界大戦時のアメリカの日系人は、全財産を没収され、砂漠や牛舎の強制収容

7面国際、読売が39面社会、毎日が1面と8面国際、日経が4面政治に對し、朝日は記事無し(なんでやねん!)。

少し意外だったのが、毎日の記事がしっかりしている事だ。順番で言うと、産経、毎日、読売、日経、朝日の順か。しっかりしている記事の新聞の売上げが芳しくないのが、なんとも皮肉だ。